

# 1年生の詩

いろいろな海

海はどこまでも広がっている

それは大きい水族館

時にはあれ おだやかになる

時にはきたなくなったりきれいにもなる

海の状態はついに決まてない

一回一回バラバラになっている

まるで友達どうしの仲のように

鳥

鳥は飛行機のように

とまっているときは

飛行機は休み

とんでいるときは

仕事中

いつも仲間どうれ助け合い

とびまわっている

木

木はどんどん成長していく

四季子いつでも元気に過ごしている

鳥の巣作りにも役立っている

木はみんなにとても役立っている

つながり

親子三人で

仲良く手をにぎっている

にぎり返したり 強くにぎったり

にぎり返されるとうれしい

強くにぎられてもうれしい

手をにぎるといふ事は

相手とつながるといふ事だ

太陽

太陽は神様のようだ

いつも空から皆を見守っている

いつもあたたかい光をふらせている

そのおかげで人は去月つ

だから皆は太陽が好きだ

都会

いつもおこる人の川

みんな急いであわててる

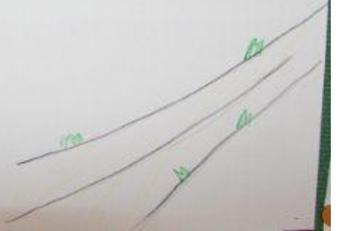
みんな急いで走ってる

こんなことが

毎日おこる

# もみじ

秋になると  
もみじが咲いて  
やかたて落ちる  
ぶつかってサワサワと音が出る  
でも落ちないもみじは  
はずかしいのか  
ねているのか  
わからない  
赤くなるまでがんばっているかもしれない



# 虫

虫は小さい  
虫はどこにいるのだろう  
土の中、原っぱ、とんでいる  
虫が二四いっしょにとんでいる  
何をしているだろう  
おにぎっこのかな



# 火

あたたかい  
ストーブのよう  
明るい  
電気のように  
手をかざしてみよう  
きつとほつとする  
心があたたかくなる

# 気持ち

雲は人と同じように気分がある  
どこかへ行きたい時は動物の形になり  
うれしい時は太陽と遊んでいる  
気分が悪いと灰色の雲になり空をおおう  
まるで人の気持ちを表しているようだ

# カメムシ

百夏になると  
カメムシは  
家の中を飛びまわる  
あああ  
風に飛ばされる  
葉っぱのようだ

# 散歩

いとこの左手と  
私の右手は  
しっかりと  
つながっている

小さな手のひらに  
大きな太陽のような  
やさしさと  
あたたかさがあった



空のインク

空は青い

神様が

青いインクをこぼしたようだ

夕方になると

赤のインクもこぼれる

夜になると

黒のインクもこぼす

金のつぶもおとす

